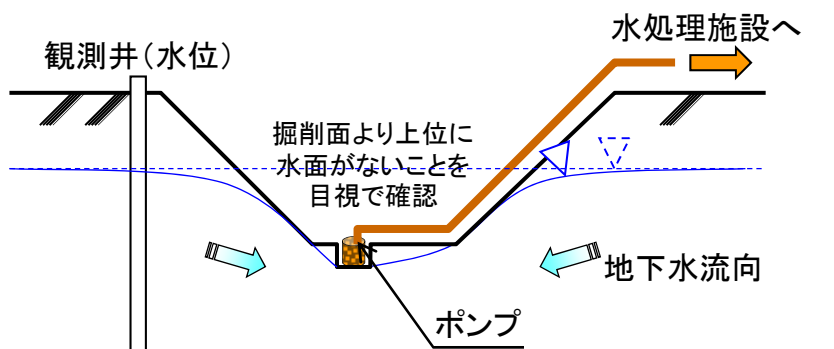
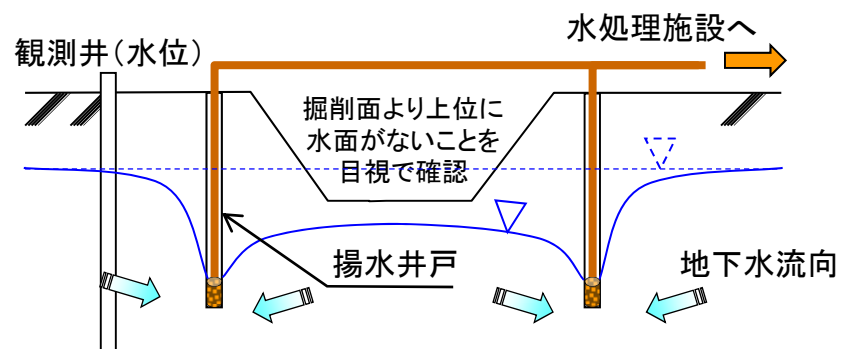


図-3.1 地下水位を管理して施工する方法の例

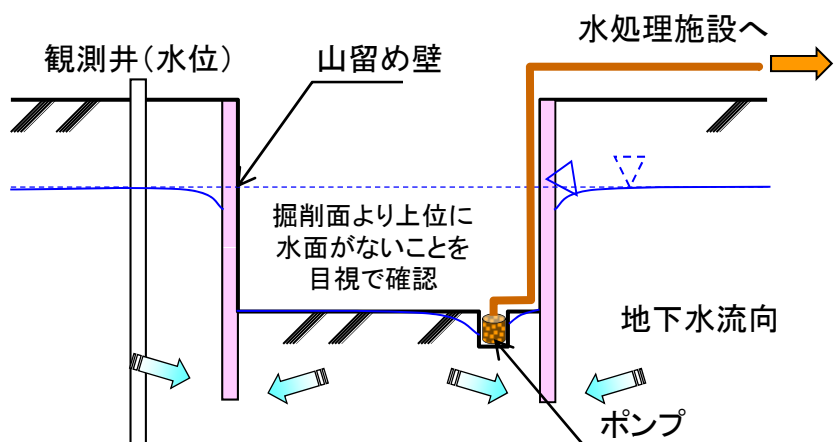
別添



(a) 釜場排水による揚水

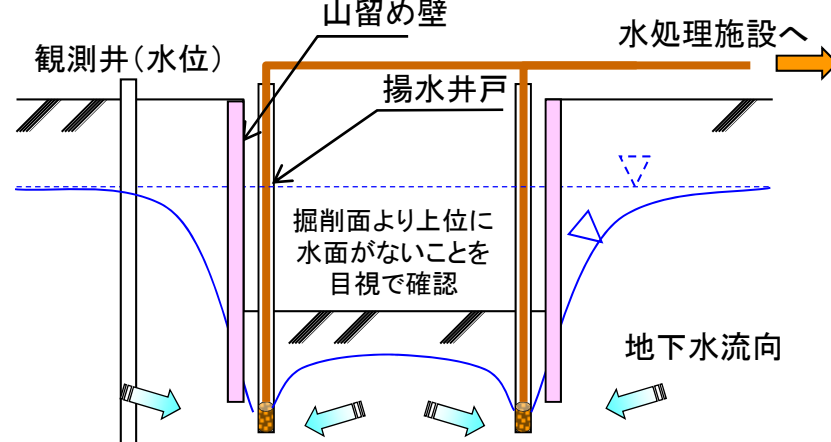


(b) 井戸方式による揚水 (揚水井戸)



・山留め壁は難透水性の地層等に達していない、あるいは遮水機能を有していない。

(c) 山留め壁を併用した揚水 (釜場排水)

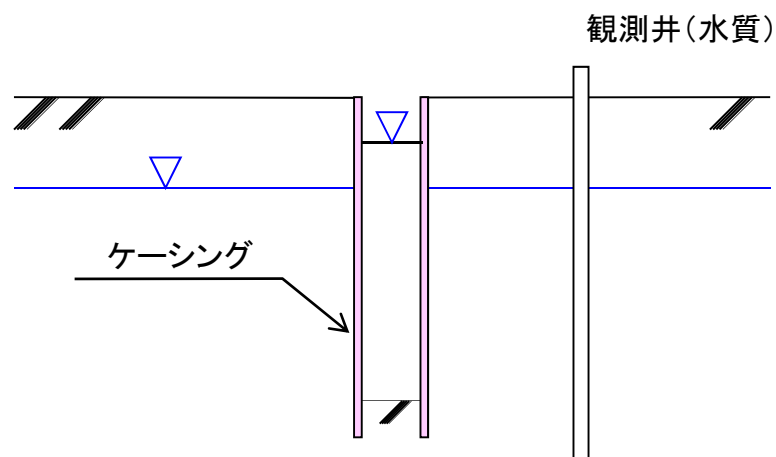


・山留め壁は難透水性の地層等に達していない、あるいは遮水機能を有していない。

(d) 山留め壁を併用した揚水 (揚水井戸)

- 測定位置: 土地の形質の変更を行う範囲の周縁
- 測定地点: 一以上の地点
- 測定頻度: 工事期間中、定期的に測定

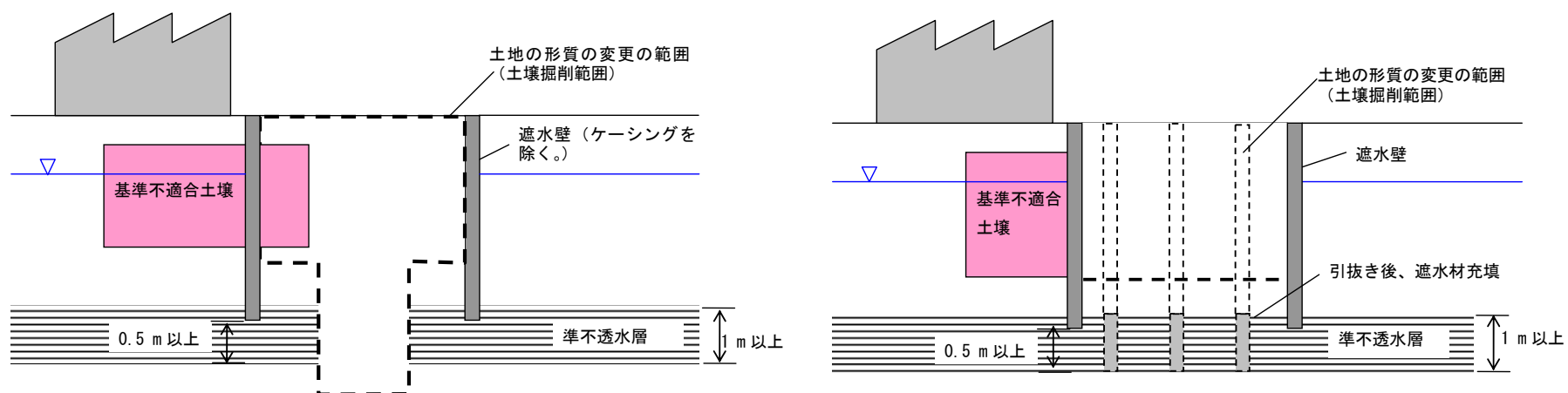
図-3.2 地下水質を監視して施工する方法の例



区域境界において地下水の水質に係るモニタリングを行い、地下水汚染の拡大が確認されたら、地下水汚染の拡大の防止(バリア井戸等)を講じる。

- 測定位置: 土地の形質の変更を行う範囲の周縁
- 測定地点: 地下水流向が明らかな場合は、地下水流向下流側
地下水流向が不明な場合は、四方位
区域外からの汚染の流入のおそれがある場合は、地下水流向上流側及び下流側
- 地点密度: 観測井(水質)の間隔は、目安として30m以内
- 測定頻度: 形質の変更前、形質の変更中(少なくとも1ヶ月ごと)
- 測定物質: 区域指定を受けた特定有害物質、措置に伴い生成されるおそれがある特定有害物質
- 測定方法: 平成15年3月環境省告示第17号

図-3.3 最も浅い位置にある準不透水層より深い位置にある帯水層まで土地の形質の変更を行う場合の施工方法の例(平成22年3月環境省告示第23号の第4)



- イ 土地の形質の変更を行う準不透水層より浅い位置にある帯水層内の基準不適合土壌又は特定有害物質が当該準不透水層より深い位置にある帯水層に流出することを防止するために必要な措置を講ずること。
- ロ 最も浅い位置にある準不透水層より深い位置にある帯水層までの土地の形質の変更が終了した時点で、当該土地の形質の変更が行われた準不透水層が本来の遮水の効力を回復すること。